

Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第136号

ななえ古写真物語 VOL. 136

変わる街並み

昭和の交差点
昭和40年代
本町地区



この写真は、昭和40年代に本町地区の交差点を撮影したと思われるもので、国道5号と七飯駅前通りが交差する箇所になる。今ではセブン・イレブン本町店が建つなどして、街並みが変わってしまった。ほんの数十年前に当たり前だった景色が、平成の時代になり大きく変貌した。

そんな感想をもつのは、4月19日から当館開催している「昭和と平成」展で、街がどのように変化したのか紹介するため、ややしばらく町内の現在（平成）と、現在も残る「昭和」を探しまわったからである。

この写真を見ただけでも、昭和と平成の違いはいくつも挙げられる。例えば、横断歩道の線。昭和は縦線と横線を組み合わせ、はしごを描いていたものが、現在の同じ場所では、横線のみで描かれている。また、信号機も昭和のものは、今でも町内各所でみることができるのだが、ここはすでにLEDの信号へと変わった。街灯もしかりである。右手前に並立している2本の電柱も、右側が木製である。町内の国道沿いの電柱は、木製のものがすでに失われていることを考えると、昭和から平成にかけて、七飯町のみならず全国的に変化したと言える。

ところで、この写真の中央手前に石積み風の門柱が並んでいるのにお気づきだろうか。裏側からの撮影になっているためわかりにくいだが、これは七飯中学校の門柱である。現在の七飯中学校は、昭和52年に新校舎が建てられ移転したが、それまでは、この国道より山側（手前側）に校舎があった。グラウンドは現在「本町他目的グラウンド」と名前を変えて残され、活用されている。当時通学路だった門柱から校舎までの道は拡幅され、多くの車が往来するようになった。

また、交差点左側奥には商店が立ち並んでいる様子がみえる。同じ場所には、今も美容室やクリーニング屋などが軒を連ねているのだが、写真のような大きなコカ・コーラやロバパンといった看板ではなく、店名をお洒落なフォントで記すものへと変わった。日よけも兼ねたビニール製のテント看板やカラフルなオーニングを構えた個人商店が姿をけす一方で、機械的な光で強調したチェーン店の看板が増えてきた。

おそらく、街並みはこれから先も大きく変わっていくのだろう。フィルムカメラで撮影された同じ場所に、デジタルカメラを構えながら、そう感じた。

6日

夜の博物館最終夜は「調査すること～日本滞在記をよみとく」と題し、R・ガルトネルの「蝦夷地探索日記」と「七重村開墾中日記」から、開墾地選定のための道南・道央部の視察から見えるガルトネルの人物像に迫りました。歴史に翻弄され、幾度も変わった交渉相手、後に「ガルトネル事件」と言われる顛末までを人物相関図や受講者の皆さんからの質問を交えながら、お話をしました。重要な意味をもつ日誌や紀行文は、裏付けをとり、精査することで、より厚みを増し、皆さんにこうして紹介することが出来るのです。



16日

冬の探鳥会を大沼地区で行いました。大沼森林公園からスタートし、バスで移動をしながらの観察を行いました。春はまだ遠い空に姿を見せる鳥たちの姿と、大沼の豊かな自然の風景を楽しみながら、およそ20種の鳥を見つけることができました。講師の田中氏の鳥を深く知るための解説が、より理解を助け、初めて参加されたお客さまから「また、是非参加したい」という嬉しいお声も頂きました。



23日

ジュニア探検クラブは文集作りと閉講式を行いました。一年間の活動をまとめた文集を例年子どもたち、ひとりひとりが製本して本にします。慣れない道具を使い、班のみんなと協力して作業しますが、遅々として進まず、苦戦する子どもたち。やっと製本が終わり、友達と様々な表情で見ている姿が印象的でした。閉講式は、修了証をもらい、一年の活動の感想を発表してもらいました。この一年の経験から学ぶことはきっと未来にあると信じています。



5月の予定

1	水	新天皇即位の日
2	木	国民の休日
3	金	憲法記念日
4	土	みどりの日
5	日	こどもの日
6	月	振替休日
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	春の探鳥会
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	ピチャリ136号発行予定
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

5月の休館日はありません。

元号に関する本

新たな元号が始まります。247ある元号を詳しく知りたい方は、学習室にあります。



編集後記 ~tawagoto~

来月から「令和」という新たな元号が施行されるので、今号が平成最後のピチャリになる。月刊とはいえ、よく136号まで続けたものだ。「継続は力なり」とよく言われるが、どんな力が備わったのかわからない。改元されるからといって、紙面を刷新するわけでもなく、思いつくまま淡々と書き綴るのだろう。気づくと館のまわりでは、桜の花芽が膨らんでいた。時代の変化よりも日々の移ろいの方が気になって仕方ない。(やまだひさし)

ピチャリ

～ピチャリ～

第136号

平成31年4月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp